

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 25

学校名・団体名	多摩市立愛和小学校
HPアドレス	<a href="http://schit.net/tama/esaiwa/">http://schit.net/tama/esaiwa/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	理科学習と連携する特色ある食育菜園授業

〈活動・研究の意義、目的〉

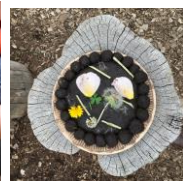
目的：理科学習に、「食べられる」学習要素を加え、効果的に組み立て、教室での学びをより体験的にし、「わかる＝理解する」は、自ら育てた食べ物の味と共に記憶され、考える力、発想力や応用力、創意工夫を養う力を引き出す。

意義：普段学校で、勉強やスポーツでは活躍する場のない目立たない子どもたちが、菜園やキッチンでは思いもかけない才能を発揮する。こうした学習は、児童の自己肯定感や自己効力感の増加、またクラスメートとの共同作業だからこそ到達できる達成感にもつながる。クラスメートと協力して作業を行うことによって、チームワークの大切さをごく自然に身につけることができる。また、食べ物がどこからもたらされ、自分の行為が命の循環にどう影響するのか、といった視点も重要で、体験的に学びながら環境や栄養、持続可能な生活を送る上で重要となる価値やスキルの獲得ができるものと考え、その成果は多いに得ることができた。

## 活動報告

### (1)活動名：おいしく育て、私たちの野菜#1

- ・ 授業時間：90分 ・対象学年：2年生
- ・ 指導者：ガーデンティーチャー+教員
- ・ スタッフ：4名 プログラムディレクター：1名
- ・ 授業進行：5/16、5/17、5/18と3日間連続2年生1組、2組、3組同カリキュラムで授業を行う。生活科との連携で行った本プログラムは、これまでの愛和小学校で行ってきた『おいしく育て、私の野菜』をアレンジし、行った。まず①児童各クラス、2グループに分かれ、グループ1は野菜の苗植え、グループ2はガーデンビンゴ（自然観察ゲーム）を実行。②グループ1の活動：それぞれが育てたい野菜の名前（きゅうり、なす、トマト、ピーマン、トウモロコシ）を言い合い、それがどんな姿の野菜になるか野菜のイラストを見ながら、名前と姿の一致を確認した。次に、苗を植えていく作業を2人1組で行った。③グループ2の活動：授業後半にある「マッド（泥）パイ作り」を想定した、ガーデン周辺の自然観察をゲームで行った。④グループ1、2がそれぞれのワークを行い、前半終了 ⑤いよいよ、泥のパイ作りの時間、これは子供たちが野菜を育てる土に親しむことを目的に実施、図工と統合したプログラム内容とした。出来上がった泥パイにゲームで観察した花や草や実を飾る。完成した泥のパイを並べ、鑑賞、授業終了。
- ・ ふりかえり：①2年生の児童には、まず「私の××」の主客意識を作る時期で、「私たちの××」に共同意識を引き出すには無理があるので、と教員より意見が上がった。次年度は、一人ひとりがまず1つの野菜を育て、さらにみんなの野菜を育てるに変更する。②野菜の名前と姿を畑で写真を見せながら行ったのは良い成果が得られた。教室での伝えよりも、児童は土の上で行うことに関心を寄せた。③土に親しみ、学校菜園の自然の姿に注目させるために行ったビンゴゲームと泥パイ作りは、児童の好奇心を全開にし、多くの疑問を引き出し、言葉で教えるのではない、自然の中で感じ、体全体で理解することが、低学年の児童には効果的であり、大切であることを、教員を含め、スタッフ一同大きな成果を感じた。児童は教室を飛び出し、野外で生き生きと自然界の不思議に身を投じることができた90分だった。



### (2)活動名：おいしく育て、私たちの野菜#2

- ・ 授業時間：45分 ・対象学年：2年生
- ・ 指導者：ガーデンティーチャー+教員
- ・ スタッフ：5名 プログラムディレクター：1名
- ・ 授業進行：7/19、3クラスごとに授業を実施。夏休み前に自分たちでお世話した野菜を収穫し、「やさいパーティ」を行った。苗を植えた時期が5月だったことで、夏休み前には実りがほとんどなく、きゅうりとミニトマトだけのわずかな収穫に終わったが、子供たちは採れたての味を存分に味わい、楽しんだ。採れたてのきゅうりの香りに児童は驚き、初めて味わう味覚だったようだ。
- ・ ふりかえり：次年度は夏休み前に収穫できるよう、苗植えるの時期を4月内に行うことを計画し、次年度に備えることになった。



### (3)活動名：見つけよう、育てよう、お世話しよう ・対象学年：1年生

- ・ 授業時間：90分 ・対象学年：1年生
- ・ 指導者：ガーデンティーチャー+教員
- ・ スタッフ：5名 プログラムディレクター：1名

#### 活動内容 ①サツマイモの苗植え ②自然となかよしガーデンビンゴ

授業進行：5月19日、1年1組、2組57名での合同授業。生活科の中にある、「自然物に関心をもち、友達と草花や生き物のあるところを探したり、草花を使って楽しく遊んだりできるようになる。見つけた自然や楽しかったことを人に伝えることができる。場所と関連付けながら子どもの気づきを広げていくように働きかける。手触りだけでなく、匂いや周囲の音（鳥の声、風の音など）五感を使い季節の感覚を引き出す」を学習ゴールに据えながらサツマイモの苗を植えるとともに、新一年生に愛和小学校のガーデンに招待し、ここにはどんな生き物がいて、どんな植物が育っているのかを観察してもらうためにガーデンビンゴゲームを行った。指導の工夫として、科学的な見方や考え方の基礎を養うために、見つけた場所やその様子（湿り気、日なた、日陰、土の硬さ）などを意識的に問いかけ、気づきを引き出すように働きかけた。

- ・ ふりかえり：小学校に入学して、これまでと勝手が違い、教室の勉強についていけない子たちも多いため、こうした野外活動を90分とたっぷり取りながら生活科の学びを行うことは、学校に菜園と言う居場所を見つけ、馴染むと言う意味で大きな成果を上げられた。



### (4)活動名：すがたを変える大豆-愛和フードを作ろう①種まき ・対象学年：3年生

- ・ 授業時間：45分 ・対象学年：3年生
- ・ 指導者：ガーデンティーチャー+教員
- ・ スタッフ：5名 プログラムディレクター：1名

#### 活動内容 ①大豆の成長を学ぶ ②種まきをする

授業進行：6月6日、3年1組、2組57名45分ずつの授業。国語単元「すがたをかえる大豆」とのクロスカリキュラムとして実施。大豆を育て、お世話をし、収穫、調理までを体験的に学んでいく。育てるために必要な作業は何か、わからないことは本やインターネットで調べたり、専門家に聞いたりしながら、自分たちの「すがたをかえる大豆」を最後まで観察し、観察を記録していった。最後に育てた大豆から何を作るか、状況に即して児童たち自身で最良の加工品を考え、皆で協力し、専門家にアドバイスしてもらいながら作り、その成果を学年末に学習発表した。ふりかえり：2月の学習発表会では大豆を使った料理について全学年で調べそれを発表したのが、皆とてもよく調べて、大豆を使った食品の多さに児童は築くことができた。育てた大豆は、きな粉にして、学習発表会で保護者に食べていただき、喜ばれた。



(5)活動名：じゃがいもラボ じゃがいもから世界を知ろう② 収穫と調理・対象学年：6年生

- ・ 授業時間：90分
- ・ 指導者：ガーデンティーチャー＋シェフティーチャー＋教員
- ・ スタッフ：5名 プログラムディレクター：1名

**活動内容**：6月20日、6年1組、25名 学習目的に「4種のジャガイモ／男爵、インカのめざめ、アンデスレッド、シャドウクィーン」の栽培、調理を通して多様な味の体験、国の違い、食文化に触れる」を軸に据え、じゃがいもキッチンクラスを行った。生徒たちは授業後に以下を達成目的に立て、収穫、調理を行った。

- ・ 育ててきたジャガイモを調理し、その味覚の違いを知る。
- ・ 多様なジャガイモの味わいや食感、姿の違いを体験を通じて理解する
- ・ ジャガイモを通じて、多様性の楽しさ、大切さを知る。
- ・ 身近な野菜、ジャガイモのルーツを知り、世界を知るきっかけとなる。

ふりかえり：ジャガイモを通じて、多様性の楽しさ、豊かさを子どもたちに伝えることを一番主眼にした授業。形、大きさ、色、味、料理方法（この日は蒸す、焼く、潰すを行った）、を行ったが、「食べる」は何よりも増して優れた教材であることを確認した授業だった。

(6)活動名：愛和自然観察調査隊- 愛和小の自然観察マップを作ろう①つながり合う世界を知ろう・対象学年：4年生

- ・ 授業時間：90分
- ・ 指導者：ガーデンティーチャー2名＋教員
- ・ スタッフ：5名 プログラムディレクター1名

**活動内容**：9月13日、4年1組、2組合同授業。ガーデンティーチャーのフィル先生につながりあう自然界のお話を聞く。

①授業目的：愛和小の森、や菜園の自然やそこに生息する生き物、植物について、もっと学校のみんなや地域の人に知ってもらうために、5のグループに分かれ、調査したいことを考え、それぞれ調査を開始。

②各グループが調査を通じて疑問に思ったことを書き出し、次回、専門家に意見を聞く準備をした。

愛和小にあるキノコはどんな種類？

(7)活動名：愛和自然観察調査隊- 愛和小の自然観察マップを作ろう②専門家と一緒に再調査・対象学年：4年生

**活動内容**：9月29日、4年1組、2組合同授業。各グループに分かれ、それぞれの専門家の先生に調査して調べたいことを伝え、その疑問をもとに専門家の先生と一緒にさらに調査を行った。この日、担任の植田先生より、愛和自然マップが提示され、そこに各グループ、調査した内容を書き入れるミッションが与えられた

【湧き水調査隊】

なんで湧き水が出てくるの？

湧き水に住む生き物は？

湧き水はどこへいくの？

どのくらい水が出てくるの？

【飼育小屋、ニワトリ調査隊】

愛和小の飼育小屋は、なんでフンの掃除をしなくていいの？

土がフカフカなのは どうして？

白くて小さい幼虫みたいなのは、何？

ニワトリはどんな性格なの？

なんで卵が生まれるの？

【畑、虫調査隊】

愛和小にいる虫の名前、食べているものが知りたい！

虫がいる場所は決まりがあるの？

どんなところにどんな虫が住むの？

【果樹園調査隊】

どうしたら食べ物がたくさんとれるの？

果樹園を整備したい！

果樹園にある果物は？いつ食べられるの？

果樹園に住む虫ってどんなのがいるの？

【森調査隊】

食べられる木は？

使える木は？(遊び、おもちゃ作り、道具作りなど)

どんな虫が住んでる？

ふりかえり：専門家の先生が調査活動に入ったことによって、児童たちの疑問はより明確に、知りたいこと、疑問に思うことを人に伝えられるようになり、学ぼうとする意欲がどんどん湧いていく様子が手に取るようにわかった。この後、2回にわたり90分授業は行われ、児童は調査の結果を思い思いのやり方でまとめ、2月の学習発表会で地域の人たちに対してプレゼンテーションを立派に行った。

